

# 乙女高原が好き！2202号

## \*\*\*乙女高原は初夏から夏へ\*\*\*

乙女高原はオレンジに彩られたレンゲツツジの季節がほぼ終了し、紫色のアヤメの季節へ、さらにこれからさまざまな夏の花が咲く季節がやってきます。マルハナバチやチョウなどの虫たちも忙しく働き始めています。

コロナ禍も少しずつ落ち着いてきて、ファンクラブも感染に注意しながら、いつもの活動を再開しています。夏にはマルハナバチ調べ隊や案内活動など、さまざまな活動も行っています。夏の爽やかな高原においでください。

## 3年ぶりに一般参加者を募集した遊歩道づくり 記事：植原 彰

5月15日(日)、ほぼほぼ天気心配はなかったので、そんなに早く出かける必要はなかったのですが、やっぱり気になって、早く行ってしまいました。そして、裏の物置やロッジの玄関から、かけや、ロープ、杭、作業用手袋、ペットボトル茶、救急セット、ゴミ袋などを出して、庭のベンチに並べました。

そのうち、スタッフの皆さんが続々集まってきました。今回は乙女高原ファンクラブ会員でスタッフ立候補者は14名。県の職員4名、市の職員4名も加わりました。9時からスタッフの打ち合わせをし、今日一日の流れや受け付けの仕方などを確認しました。

参加者の皆さんも続々と集まり始めました。今回は3年ぶりの「参加者を一般公募」しての遊歩道づくり。いったい何人が参加してくださるだろうと不安でしたが、ふたを開けてみると、スタッフも含めて73名もの参加者があり、本当にありがたかったです。いつも大所帯で参加してくださる山梨ロータリークラブの皆さん、株式会社田丸・田丸グリーン基金の皆さん。田丸グリーン基金からは、今年も多額の協力参加費をいただきました。ありがたいことです。数人の高校生の参加者もありました。県有林課で、高校にちらしを配る手配をいただいた効果です。高校生の中には、このような環境ボランティア活動に興味がある人がたくさんいるんだなということがわかりました。頼もしい気持ちになりました。

遊歩道づくりについては、事前に山梨日々新聞で大きく取り上げていただきました。環境保全活動にとって、マスコミは重要なパートナーです。ボランティア・ボードも告知に活用しました。県内の全高校以外では、山梨市と甲州市の全小中学校にちらし配布をお願いしました。このような事前の取り組みがあって、当日を迎えたわけです。このほかにも効果的なPR方法がありましたら、ぜひ教えてください。

さて、9時半から「始めの会」が始まりました。進行は市観光課長の土屋さんです。ご挨拶は共催3者を代表して峡東林務環境事務所長の伴野さん。市長の高木さんのメッセージを土屋さんが代読し、植原が今日一日の流れと留意事項をお話しました。

班ごとに分かれ、班長さんからの諸注意を聞き、必要な資材と道具を持って、森のコース、草原のコース、ツツジのコースへと進み、作業が開始されました。

ロープはコースごとに違う色のビニールテープが付けられていたので、各コースに必要な長さは揃えられていたはずなのですが、計算通りにいかないのが世の常。途中、足りなくなると、「ロープ、取りに行きます」と志願くださった方が本部のロッジ前まで予備のロープを取りに来て、また自分の班に戻って行きました。みんなが待っていると思うと、自然と足早になっていきます。きっと疲れただろうと思います。また、待っている方たちは、ロープが来るまでは仕事が足止めされてしまうわけですから、イライラしたかもしれないなと思いました。どの班も予備ロープを持って行った方がいいかもしれません。

結局11時ころには全部終わってしまいました。皆さん、ご苦労様でした。終わりの会では、ファンクラブ代表世話人の角田さんがお礼のあいさつをし、三枝さんが諸連絡をしました。



皆さんが張って下さったロープは、乙女高原の展示コーナーでもあります。現在地が分かる遊歩道マップや「虫や花を採らないでください。なぜなら…」「ロープの中に入らないでください。なぜか」といった注意看板、その時期に咲いているお花を紹介するカードなどを吊るしています。乙女高原に来られたときは、これらを自然観察のお供にしてくださいね。

※角田さん作成のユーチューブ動画はこちらです→



## スミレがいっぱい!! スミレ観察会 2022

**\*その1\*** 5月15日(日) 記事: 角田 敏幸

遊歩道づくりが午前中早めに終わりました。早めに昼食にして、スミレ観察会を行いました。観察会のお知らせでは13時から開始ですが、急に寒くなって来たので植原さんに13時から来る人を受付で待って頂き、私達は13時前に観察会に出発しました。講師は井上さん。出発前に植原さんからスミレのレクチャーが有りました。今回は森のコースからツツジのコース回ることになりました。



サクラスミレがいっぱい

草原のあちこちに、サクラスミレが例年より多く見られました。キジムシロの黄色い花、シロバナエンレイソウ、エイザンスミレ、マイヅルソウ等が森のコースには咲いていました。サクラスミレも遊歩道沿いからたくさん見る事ができました。草原にこんなにたくさんのサクラスミレがあったのかと驚いています。

皆さんの話によると昨年は丁寧に草刈りをやったからと言ってます。特に三枝さんが丁寧に草刈り実施していたといひます。エイザンスミレの花はもう終わりであり咲いていませんでした。大きな夏葉がたくさん有りました。来年が楽しみです。森を抜けた所に、シロバナエゾノタチツボスミレが咲き始めていました。渡辺さんが皆さんに解説して下さいました。



アカネスミレ

富士山がよく見える展望台でアケボносミレ、アカネスミレ、ヒゴスミレ、スミレ(マンジュリカ)の観察をしましたが、今年はスミレの数も数える事になり草原内に皆さん立ち入っての観察となりました。立ち入ることは考慮すべきか、観察方法を変えるべきか検討が必要です。今度はツツジのコースを下って、スミレの観察をしながらロッジまで戻りました。なんとレンゲツツジの中にサクラスミレの群落をたくさん見る事が出来ました。これも事前準備の時に白樺、ダケカンバの小枝を切って遊歩道から中が見やすくなったからかな。

フデリンドウが可憐な花を付け、最後に、また訪れてよと言っているようでした。ロッジに戻りスミレの絵はがきを頂き、観察会の締めをして解散しました。

解散後、有志で四季の森に移動、森の入口近くの斜面にサクラスミレが咲いていました。ミヤマスミレも少し見られました。タチツボスミレ、ヒメイチゲも咲いていました。次回も楽しみです。

スミレ観察会の様子は動画編集され、ユーチューブにアップされています(角田さん製作)。ぜひご覧ください



スミレ観察会 1



スミレ観察会 2



スミレ観察会 3

### 乙女高原の感想

※参加した小学校4年生がレポートを書いてくれました。

5月15日に乙女高原に行って、午前中はロープはりとい打ちをしました。午後はスミレかんさつ会にさん加しました。まず、乙女高原内をさがしたところ、見つかったスミレはアカネスミレ、アケボносミレ、エイザンスミレ、エゾノタチツボスミレ、サクラスミレ、マンジュリカ(スミレ)、タチツボスミレ、ヒゴスミレです。

そのあと、少し山を下った所にじやりのちやう車場があって、そこに車をとめました。そこで見つけたスミレは、ニョイスミレ(ツボスミレ)、ミヤマスミレです。最初ぼくは、スミレは一しゅ類だと思っていたけれど、このかんさつ会で、沢山のスミレがあることを知ってびっくりしました。楽しかったのでまたさん加したいです。ちなみにぼくのおばあちゃんの家のお庭にもお花はかれていましたが、サクラスミレみたいなスミレの葉っぱがありました。

**\*その2\*** 5月22日(日) 記事: 渡辺 和男

スミレ観察会の2回目。集合時間の10時にグリーンロッジの駐車場に集まったのは14名でした。先週に実施した1回目から1週間しか経過していないので、見られるスミレの種類に大きな変化は見られないでしょう。そこで今回は種ごとの生育環境などを少し深掘りして観察することにしました。



最初にリーダーの井上さんからスマレの種類や構造、集まる虫たち、生存戦略についてレクチャーを聞きました。話だけではなかなかピンとこないと思いますが、観察会で実際に見たり聞いたりすることで理解を深めてもらうことにしました。

森のコースから富士山の展望地に向けて進みます。草原の日当たりの良い場所ではサクラスマレがたくさん咲いていました。しかし、花のピークは過ぎたようで先週よりも花の色が薄くなっていました。そんな色の変化を楽しむことができるのも観察会の良いところ。展望地の手前まで登るとエゾノタチツボスマレを見かけるようになりました。タチツボスマレのような淡紫色の花もありますが、ここで多く見られるのは清楚な白花のほうです。スマレの季節の後半に茎を高く伸ばして葉をつけて花を咲かせるタイプのスマレですが、これは周囲の伸びた草に埋もれてしまわないようにする生存戦略だと思われます。



エゾノタチツボスマレ

展望地ではスマレ(マンジュリカ)が咲いていました。このスマレを見て「よくばり」と表現している方がいました。最初は意味が分からなかったのですが、葉柄に翼があるので「翼張り」と聞いて納得しました。なるほど特徴を良く捉えていますね。

展望地から草原のコースを下り、ツツジのコースへ向かいました。先週にはたくさん咲いていたサクラスマレの多くが終わりを迎えていましたが、かわりにフデリンドウがたくさん咲いていました。谷地坊主の説明板周辺ではニョイスミレが咲いていました。沢沿いなど湿

気のある場所がよく見かけるスマレです。スマレの種類と生育環境との関係調べると面白いかもしれません。

昼食後、スマレの観察会ではあまり歩いたことがない大窪山まで行ってみることにしました。谷地坊主前の駐車場から入山し、ベンチのあるピークへ向かいます。登山道沿いにはアケボノスマレ、そして背の低いミヤコザサが茂る明るい林縁には大株のサクラスマレを見ることができました。南斜面の日当たりが確保できるこの場所は、サクラスマレが大きく育つのに適した環境なのでしょう。ピークを越えて下った先の鞍部は薄暗く湿り気があり、コケが好む環境が広がっていました。コケの上にはマイヅルソウやミヤマスマレの葉の群生が見られました。ミヤマスマレは盛んに地下茎を伸ばして増えるタイプなので、しばしば群落を形成します。残念ながら今回は時期が遅く開花株をほとんど見かけることはありませんでしたが、かわりにワチガイソウが咲いていて癒されました。大窪山の山頂部周辺ではアズマシャクナゲが咲いていました。見ごろは過ぎていましたが咲いていることが確認できただけで十分です。



アズマシャクナゲ

下山後にグリーンロッジ前で簡単に終わりの挨拶を行い解散しました。乙女高原周辺には、草原、湿地、暗い林、明るい林などの多様な環境が存在します。そんな豊かな環境が生物の多様性を生んでいることを改めて知ることができました。

### \*その3\* 黄色いスマレ観察 6月04日(土) 記事：植原 彰

6月4日(土)、今年度最後のスマレ観察会を実施しました。道の駅に集合した人で、六本檜まで移動し、そこから、黄色いスマレ群生地を目指して歩いていきます。

道端の水気のあるところにはクリソウ。赤い花ばかりでなく、ほとんど白い花もありました。ミヤマハコベの花びらは、よく見るとVサインのように見えます。若葉を通して、6月の陽光が降り注いでいます。まるで黄緑色のステンドグラスのようです。けもの糞(たぶんキツネ)に、たくさんのキマダラヒカゲが集まっていました。木々にシカの痕跡。白っぽい筋が見えるのは、シカの下前歯でかじった痕です。それにしても、はぎ取った部分の境界線が横一直線になっているのが不思議です。この木はサクラ。サクラの皮は横向きに剥がしやすいので、矛盾はないのですが、それにしても、横一直線ですね。道端にミズゴケが生えているところがありました。



シカによるサクラの樹皮はぎ

そして、ようやくキバナノコマノツメの群落にたどり着きました。そこで弁当を食べ、同じ道を帰りました。帰りに見つけた「落とし文」。裏が真っ白い葉を巻いているので、造形の面白さがよけいはっきりわかります。

乙女高原にも寄ってみました。レンゲツツジが咲き始め。森の中にはギンリョウソウもありました。ロッジの庭で大勢の人がテントを張っていたので、びっくりしました。

※三島市から参加された吉澤さんがレポートを書いてくださいました。

道の駅花かげの郷まきおかに乙女高原ファンクラブ7名、97会9名が集合、自己紹介の後、林道川上牧丘線の六本檜に移動し、シロバナノヘビイチゴの白い花が星を散りばめたように咲き乱れる林道鶏冠山線を歩き始める。登るほ



左シロバナノヘビイチゴ  
右キバナノコマノツメ

どにミヤマハンショウヅル、コミヤマカタバミ、ミヤマスマレ、ズタヤクシュなどを見かけ、稜線近くで群生するキバナノコマノツメを楽しむ。終日さわやかな好天気恵まれ、途中で金峰山～鉄山～朝日岳の山並みが望まれた。富士山は雲のため山頂付近のみを見るにとどまった。帰路、乙女高原に立ち寄り、森の道コースで白花のエゾノタチツボスマレを探勝する。茎は凛と直立し、切り花にもなりそうな立ち姿であった。

【メールマガジンで 誌上討論をしました】

## 乙女高原のスマレ観察会について 植原 彰

乙女高原で30種類ものスマレが見つかっています。こんな狭い範囲に、同じ「属」の植物がこれだけたくさん生育できている…これはすごいことです。この発端は「どうも乙女高原はスマレの種類が多そうだよ」という気付きでした。「だったら、スマレのフィールドガイドを作ろう」という話になり、依田 昇さんを中心に、乙女高原フィールドガイドシリーズ3となるリーフレットを作りました。リーフレットは2012年に発行され、このとき、乙女高原のスマレは18種類でした。「たくさんのスマレに恵まれている乙女高原だし、リーフレットも作るのだから…」と、これも依田さんの発案でスマレに特化した観察会を2011年に始めました。スマレ観察会は、乙女高原のスマレの情報収集も兼ねて行ってきたのです。それが功を奏しました。多くの目でスマレを観るのですから、毎年、新たなスマレの発見がありました。自分も2011年にシコクスマレを「発見」して、とても興奮したのを覚えています。

スマレ観察会を始めて12年目の春が終わりました。今までのスマレ観察を振り返る時期になっています。きっかけは、乙女高原の活動について様々な協力や助言をいただいている高槻成紀さんからの提案でした。

### ■議論1■ スマレの種類を増やすことよりも、どう生きているかを観察しよう

乙女高原に30種類のスマレが生育していたとしても、それが見つからなければ、ないも同然です。ですから「多くの目で乙女高原のスマレを観よう」というスマレ観察会はとても有意義だったと言えます。

ですが、「新種探し・変わり者(変種・雑種)探しに大いなるエネルギーを注ぐよりも、各種がどう生きているかを観察することにもっと注力した方がいいのではないか」というのが高槻さんからの提案でした。この提案には、「乙女高原でたくさんのスマレが見つかったのだから、活動の次のステージとして、各スマレの生活の様子を少し本格的に調べてみない? 乙女高原には人材もいるのだから、きっとできるよ」というニュアンスも含まれていたのだと思います。この提案を受けて、スマレの生育状況調査が具体的に始まっています(詳しくは6ページをお読みください)。

メールマガジンでの紙上討論の様子は以下でご確認ください。



メールマガジン 477

478

479

さて、高槻さんと植原とで、「新種探し・変わり者(変種・雑種)探しよりも、スマレがどう生きているかを観察しようよ」についてメールで意見のやりとりをし、それをメールマガジンで公開したところ、多くの方からご意見をいただき、それをまたメールマガジンで公開し、乙女高原ファンの皆さんと共有しました。「新種探し・変わり者(変種・雑種)探し」の功罪について、また、観察会のそもそもの目的について(乙女高原の生物多様性や生態系を考える)など、様々な視点からのご意見をいただくことができました。具体的なやりとりについては、実際のメールマガジンをお読みください(QRコードを読み取れば、表示されます)。

#### 新種探し・変わり者探しの意義

- 純粋に好奇心から探してしまう。いろいろなスマレが見分けられるようになり、そのどれにも当てはまらないスマレや、〇〇スマレのうよだが、なんか違う感じだなというスマレに出会うことがある。調べると、新発見のことがある。そうすると、乙女高原のスマレが一つ増えた喜びを感じる。
- 交雑種や変種を見ていると、新しい種分化の胎動を見ているような気がする。つまり、生物多様性の最前線。
- 乙女高原の「価値」を伝える際、メッセージの中に「数」が入ったほうが、客観的で、より伝わりやすくなる。「たくさんのスマレ」ではなく、「乙女のスマレは30種類」と聞けば、スマレの多さ、ひいては、多様なスマレの生存を可能にしている乙女高原の自然の懐の大きさを想像できるのではないかな。
- 交雑や変種が起きるのはどのような環境なのかを考察することは植生の多様性を理解することにも通じる。
- 交雑種ができるのもいろいろなスマレがたくさんあるからなので、乙女高原の多様性や豊かさを感じる。など

#### 新種探し・変わり者探しの課題、スマレの生き方観察

- ◎花粉の種間やりとりは頻繁に起きているはずで、いがりさんの本(ヤマケイ「日本のスマレ」)にたくさん紹介されている。種内変異もあり、その上交雑が起きるのだから、迷うもの、怪しいものはたくさんあるだろう。私が感じるのは、そういう変わり者を探すことに大いなるエネルギーを注ぐよりも、各種がどう生きているかを

観察することに注力した方がいいのではないかということだ。そのことをするのに乙女高原という場所と、関連する人材があるので、それだったらこういうことができるというのが私の提案だ。その方が「変わり者探し」よりはスミシ好きの世界が深まると思う。

- ◎生物のくらしぶりを知らうとすることとビギナーに名前を知ってもらうことは矛盾しない。それを入り口にして、変異や雑種に興味を持つ人はそれでいいし、生き方のおもしろさに気づいてそちらを深める人がいたらなおいいと思う。そうすると観察会の雰囲気も違ってきて、「変わり者がないかな」という目でスミシを見る人もいれば、「こいつはこういう場所を好むんだ」とか「たくさんあるけど、花がないのはどうしてだろう」などという目で見える人もいる。ビギナーは「はあ、そういうおもしろさがあるんだ」と目を開かれると思う。観察会が変わりものを探す「だけ」なのは良くないというか、もったいないと思った次第。(以上の2つは議論の発端となった高槻さんのご意見)
- スミシに限らないが、ファンクラブの裾野を広げられるような観察会が望ましい。そんな意味でも、「観察会が変わり者を探す『だけ』なのは良くないというか、もったいないと思った」という高槻先生の言葉に共感した。
- スミシ観察というと「新しいもの探し」「珍しいもの探し」に傾斜してしまう傾向があり、スミシたちの「生きている姿」や「他の生き物たちとのつながり」になかなか目がいかないと思っていた。なんとか打開したくて、スミシ観察のヒントを載せたプリントを作ったり、「いもむしハンドブック」を活用して、スミシを食べるイモムシの一覧表を作り、イモムシ探しをしてもらったりしたことがある。
- 一番の課題は踏み荒らし。希少種探しに気をとられて普通のものに気を配ることがおろそかになり、特に幼葉を踏みつけていることや共生菌を含めて土壌微生物を損傷してしまう。
- 「交雑種のスミシの情報を出すと、その地域で、そのスミシがなくなってしまう」こともあるという。そんなことにならないよう、乙女高原でも、交雑種・変種の情報はあまり出さないほうがいいかもしれない。
- 乙女高原にたくさんいる基本的なスミシについては、やはり何となくではなく、しっかり記録しておくことは、今後の変化を見ていくうえでも大切なことと思う。

## ■議論 2 ■ 観察会では遊歩道以外には踏み込まないことにしよう

5/15、遊歩道作り後に行われた観察会についての事例ですが、じつは今までのスミシ観察会もこの傾向とは無縁ではありませんでした。それらを含めた問題提起です。

【事例 1】「富士ビュー」では山名板の先にロープはないが、観察しながらシカ柵近くまで歩くと、そこはもうロープの向こう側、つまり、「入ってはいけない」はずの場所。

【事例 2】「富士ビュー」から「草原のてっぺん」に向かうコースは、ロープは片側だけだが、ロープがない側は遊歩道を外れて入っていてもいいのだろうか？

【事例 3】イチ○○○○を観察した場所では、完全に遊歩道を外れ、みんなで森の中を歩き回っていた。観察会の中で、大勢で森の中を歩くことによる悪影響については、すでに警鐘を鳴らしていた(2018.5)。

乙女高原ファンクラブはロープ張りを主催している団体の一つ。そのファンクラブの活動でロープの中に入っていたり、遊歩道を外れた場所で観察していたりするの大きな矛盾といえます。また、乙女高原ファンクラブの活動の目的は「乙女高原の自然を次の世代に確実に譲り渡すために、その自然と、人と自然の関わりを育む」、簡単に言うと自然保護です。「自然を楽しむ」だけの会ではないはず。観察会に参加した小学生に、森の中を大人数で自由に歩き回る私たちの後ろ姿を見せるのか、遊歩道を外れなくても自然観察を楽しんでいる後ろ姿を見せるのか…ということだと思います。もちろん、個人的に山の中を歩き回っているいろいろな生きものを探さ…といったことまで否定する気はまったくありません。一人だけだったら、よほどのことをしない限り、自然への影響も小さくて(持続可能な範囲で)済みます。ですが、個人ではなく、乙女高原ファンクラブの活動として行う際は、そういうことにも気を付けませんか？

ただ、具体的に、どの活動で、どんな配慮を…となると、意外にむずかしいです。

【活動例 1】マルハナバチ調べ隊→現段階でも遊歩道から外れずに行っている。→問題ない。

【活動例 2】谷地坊主の観察会→谷地坊主の中に入らないと「谷地坊主の身体測定」はできない。

得られたデータは谷地坊主の保全に生かせる。天然記念物に指定されていない所で行っている。  
→中に入る明確な意図があり、配慮しながら入っている。

【活動例 3】自然観察交流会は基本的に個人的な活動なので、「各自の判断に任せる」でいいのか。

【活動例 4】黄色いスミシ観察会も自然への配慮が必要。「道端から2m以内」といった自主ルールは？

この課題についてもメールマガジンで提案し、多くの方々からご意見をいただきました。これも、具体的なやりとりについては、実際のメールマガジンをお読みください(4 ページの QR コードを読み取れば、表示されます)。

○まずはファンクラブのメンバーがその原則を守ることが必要。初めて観察会に参加される方は、ファンクラブ



のベテランの人の行動を見習いますから。

- やはり大人数で踏み込むのは自然へのダメージが大きい。以前行った観察会では四季の森の遊歩道以外にはなるべく立ち入らないようお願いしたのだが、今回はしなかった。
- 遊歩道を歩くだけで見られる植物や昆虫等に絞って観察したり見つけたりするだけでも、乙女高原の自然の豊かさを十分に伝えられると思う。長年続く恒例行事ではあるが、今後は「スミレ観察会」ではなく、「春の観察会」のような形も視野に入れて検討をお願いしたい。スミレに限定するとどうしても踏み込まないと見られない種類もあり、今までのようになってしまいがちだ。
- マナーは「決めて(決められて)守る」といったしろものではなく、「自分で考え、判断して、実行する」もの。だから、観察会で遊歩道を外れている人を注意するとしたら、「ルールですから守ってください」ではなく「遊歩道を外れていいかどうか自分で判断して決めてください」といった伝え方ができるといい。
- 「道端 2m以内は OK」→なぜ 2mなのか、人それぞれで考え方が違うので、ガイドライン作りが難しいなと感じる。結局は「自分の頭で考える」ことが大事というのは、本当にその通りだと思う。とは言え個々人の考え方が「自然保”誤”」にならないよう、今回の問題提起がみんなで考えるきっかけになるといいと思う。

### ■議論 3■ 世話人会で、話し合いました

以上述べてきたことを 6 月の乙女高原ファンクラブ世話人会でも話し合い、以下のような結論を出しました。

- スミレ観察・調査→高槻先生提案の「スミレの生育状況調査」を来年度行っていく(以下の記事参照)。
- スミレ観察会→スミレに限定せず「春の観察会」という名目で行う(遊歩道づくり午後か?)。
- 観察会では遊歩道で観察できる範囲での観察とする。観察会の中では希少種には触れない。

## スミレの生育状況調査 2022(試行)

記事：高槻 成紀

私は乙女高原にたくさんの種類のスミレが生育していると聞いており、調査に行くたびにそのことを確認していた。毎年春になるとスミレの観察会が行われ、その豊富さが報告されていた。同じ属の植物が豊富に共存することには何か理由があると思い、一言で「乙女高原のスミレ」といっても各種のスミレにとっての細かな環境には違いがあり、スミレのもつ生理生態学的な特性の違いによって多種の共存が可能になっているのではないかと考えた。実際、サクラスミレは草地に多く、ミヤマスミレは林に生え、ニョイスミレは湿った場所を好むなどのことは経験的に知っている。そうであれば、多くのスミレに関心を持つ人がいるのだから、調査としてデータをとることを提案した。

2022 年の春に調べる内容を考えて記録用紙を作り、観察会などで記録をとり、6 月 16 日までに 171 の情報が得られた。このうち 14 は「なし」という記録なので、実質 157 ということになる。これを標高と生育地について整理したので報告する。標高は 900 m 台から 100 m 刻みで集計した。生育地は湿地、草地、林縁、落葉樹林(落葉広葉樹とカラマツ)、常緑樹林(常緑針葉樹林)に分けた。これを種ごとに集計し、記録が 5 以上であったスミレを取り上げた。

**【結果】**多くの種は標高 1500 m から 1700 m レベルで多かった(図 1)。低地でもみられたのはニョイスミレとタチツボスミレであった。アカネスミレは 1700 m 台だけとなっているが、実際にはこれより低いところにも生育する。ニョイスミレとタチツボスミレが 1100-1400 m の間で記録がないが、これも実際には生育することはわかっている。その意味で、この結果は調査した場所の標高に偏りがあることを反映しており、来シーズンは標高による調査頻度をそろえるようにしたい。

生育地については次のような傾向があった。サクラスミレが草地で

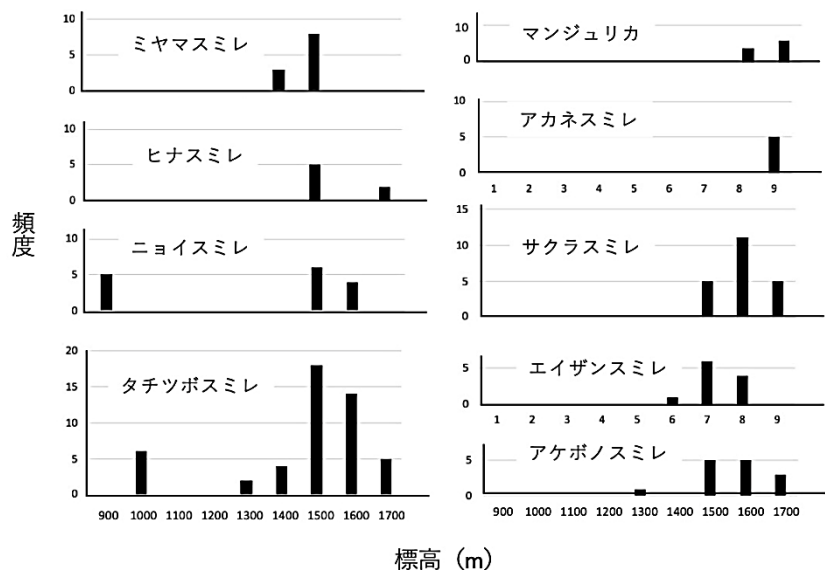


図1. 乙女高原一帯でのスミレの標高 100 m 刻みでの分布。マンジュリカとは狭義の「スミレ」Viola mandshurica のこと

多い、アカネスミレ、マンジュリカ(狭義の「スミレ」Viola mandshurica)は草地だけ、エイザンスミレとミヤマスマシレ、ヒナスミレは落葉広葉樹林が多い、タチツボスマシレは湿地以外の多くの環境に生育する。ニョイスミレは湿地と草地で多い(図2)。

【結論】 記録用紙はやや複雑で記録がしにくかったので改良したい。データの取り方として、乙女高原周辺に集中したため、低標高での実態を捉えることができなかった。調査地の調査頻度をそろえるようにすべきである。生育地については種ごとの傾向がある程度把握できた。またまった調査でなくても、野外でスマシレを見かけたら報告するようなシステムを工夫し、情報の充実を図りたい。今後はこれらの点を反省し、今後の調査を改善したい。

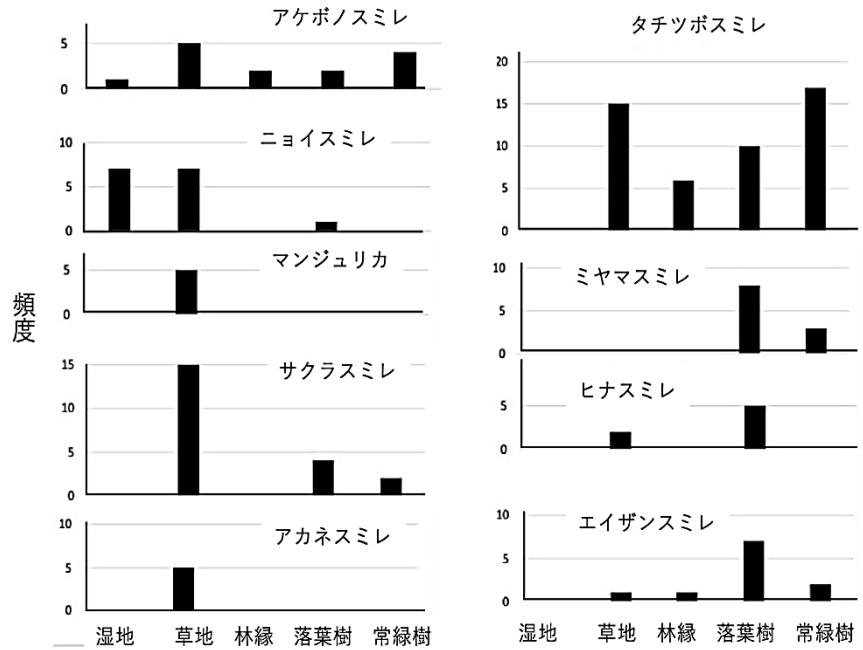


図2. 乙女高原一帯でのスマシレの生育地ごとの出現頻度。マンジュリカとは狭義の「スミレ」Viola mandshurica のこと

## 花と虫のリンク調査2022 その1

記事：植原 彰

「花と虫のリンク」調査の今年度第1回を5月28日(土)に行いました。指導して下さる高槻さんを含め6名が集まり、レンゲツツジがちょっぴり咲き始めた乙女高原で「花を訪れている昆虫を数える」調査を行いました。暑かったけれど、とても充実した楽しい調査でした。

まず、高槻さんから調査の方法を説明していただきました。

その後、担当する遊歩道を決め、それぞれ調査を始めました。花に昆虫が来ていたら、それを1単位(1リンク)として記録していくという、ある意味、単純な調査です。でも・・・全部記録するのはとっても大変。

午後からは、10mおきに1m四方のコードラートを作って、その様子を写真に撮りました。

「自分たちにとって大切な自然を、自分たちで調査して、その特性を理解し、保全の方法を考える」というのは環境保全・自然保護にとって、とても大事な態度だと思います。そして、こんなにかげがえのない体験を、ぜひ高校生や大学生といった若い人たちにしてもらいたいと思いました。遊歩道作りにも数人の高校生が参加してくれましたので、ニーズはあると思っているのですが、いかんせん、若い人たちとのつながりがありませんし、若者たちが自分たちで来るには乙女高原は遠すぎます。若い人たちに参加してもらおうと手立て、こういった情報を若い人に届ける手段はないでしょうか。



高槻さんから調査について説明を受ける



ただいま調査中



「全国草原の里市町村連絡協議会」主催(環境省、静岡県、日本自然保護協会、全国草原再生ネットワーク後援)の「未来に残したい 草原の里100選」に乙女高原もエントリーしたところ、入選しました。今回入選したのは全国から34草原です。選考委員は湯本貴和さん、高橋佳孝さん、養老孟司さんなどだったそうです。



今年度も基本毎月第一土曜日に「乙女高原自然観察交流会」を開催します。詳しくはホームページで。

## ・乙女高原自然観察記録・

### ●4月の自然観察交流会

4月2日

記事：渡辺 和男

長かった冬も終わり麓の桜も満開を迎えています。春の乙女高原の活動は恒例のカエルの産卵調査から始まります。集合場所の道の駅に集まったのは6名で、遅れて1名が合流するので参加者は合計7名です。車に分乗し山口経由で乙女高原に向けて出発しました。

ヒナスミレの咲く斜面周辺では早春の花を探すことにしました。間もなくヒナスミレの開花を見つけました。枯れた沢まで下りるとハナネコノメ、ツルネコノメソウ、ハシリドコロが開花していました。しかしミツバツチグリ、ヤマエンゴサク、ニリンソウ、キランソウは葉のみで、今年の同時期よりも全体的に花の開花が遅れているようでした。

通称カエル池で産卵調査を行いました。今年の同時期には池の水は枯れてしまっていたのですが今回は水が戻っていました。凍った池の表面の下を覗くとうれいことに卵塊がありました。カエルの存続が危ぶまれていましたが無事だったようです。南斜面ではキブシとヒナスミレが咲いていました。葉の落ちた木々の間からは富士山が見えました。

落石防止工事予定地の落葉樹林帯に立ち寄りしました。12月の訪問時は深い落ち葉で靴が沈み歩きにくかったのですが、雪の重みで落ち葉が圧縮されたのでしょうか、沈むことなく歩きやすくなっていました。落ち葉の上には数えきれないほどのトチの実が落ちていました。見上げると立派なトチノキが存在感を示していました。植原さんが地面から露出したハシリドコロの地下茎が削られているように見える様子を見つけました。付近にシカの糞があったのでシカがかじったのかとも思いましたが、毒をもつハシリドコロをシカが好んで食べるとは考えにくいので謎です。散策を終えて出発しようとするコガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジウカラなど多くの野鳥が集まってきました。野鳥の通り道かもしれません。

焼山峠から乙女高原へ向かう途中にある木道の湿地帯で産卵調査を行うことにしました。山の北斜面には雪が残っていましたが湿地帯にはありませんでした。濡れて滑りやすくなった木道を調査地点へ進み周辺を探すと、5腹の卵塊がありました。植原さんが昨日の下見でカエルの声を聞いたという西隣の湿地帯のポイントまで足を延ばすことにしました。声の聞こえた付近まで行くと弾力がありそうなフレッシュな卵塊が1腹ありました。昨日はなかったということなので産卵して間もないのでしょう。

最後の産卵調査地点は谷地坊主エリアです。道路から谷地坊主の近くまで下りて足元に注意しながら卵塊を探しましたが見つかることはできませんでした。木橋の近くではクリンソウの葉が出ていました。さらに奥の谷地坊主エリアへ向かいました。残雪の斜面を下って沢の上流に向かって探しますが見つかりません。あきらめて戻ろうかと思いつつ、見つかったとの声があがりました。そこにあったのは1腹だけでしたが、うれしかったです。



ロッジ前で昼食後、草原内を散策することにしました。展望台方面へ向かって各々のペースで斜面を登ります。

早春の花が咲いていないかと足元を探しますが見つかりません。台風の影響でしょうか、幹から折れたバココヤナギが横たわっていました。枯れているのかと思いきや枝からは白い毛に覆われた可愛い新芽が出ていました。植物の生命力には驚かされることばかりです。展望台からは富士山の山頂部のみを見ることができました。展望台から草原のコースを下ります。草のない開放的な斜面から大菩薩方面を見ると、稜線が雪で真っ白になっていました。草原の中

でフデリンドウの葉を見つけました。まだ小さくて花が咲くのはもう少し先のようです。ツツジのコースへ進むと日陰には10cmほどの残雪がありました。おそらく一昨日降った雪でしょう。この時期にはおなじみのヒメツチハンミョウを2匹見つけました。一方はオスで元気に動いていましたが、もう一方のメスはなぜか動きが鈍かったです。

草原を一周したところで草原のあちこちにあったソーセージのように長く伸びた土塊についてみんなで考察しました(右写真)。ソーセージの先端には地中に向かって穴があったこと、土に混じっている糞はネズミのものであることまではわかったのですが、出来上がるまでのプロセスなどは依然として謎のままです。謎は簡単にわかると面白くありません。いろいろな可能性を考えるのが楽しいのです。





最後に焼山峠に立ち寄りしました。ここの湿地では産卵間もない18腹の卵塊を見つけることができました。振り返ると草木の開花については今年の同時期と比べて遅れていると感じました。来週以降は暖かな日が続く予報なので季節は一気に進むことでしょう。乙女高原での活動はこれからが本番です。忙しくなりそうです。

## ●ヤマアカガエル産卵調査

4月17日(日)

記事：角田 敏幸

集合場所の道の駅(花かげの郷まきおか)に集まったのは5名(内、子供1名)で、車3台に分乗し、杣口経由で乙女高原に向けて出発しました。乙女高原に行く途中の杣口金桜神社鳥居付近はしだれ桜が満開で、その先の産卵調査地杣口林道入口は前回同様産卵なし。すぐ山の上はヤマザクラが咲き誇り観察日和でしたが、天気予報では午後から雨の予報、雨を心配しながら今年第2回目のカエルの産卵調査を行いました。通称カエル池で産卵調査を行いました。前回の卵塊が小さな池にオタマジャクシとなり泳いでいました。南斜面ではエイザンスミレ、マルバスマレ、アカネスマレ等が咲いていました。また、ミソザザイ、シジュウカラ等が鳴いていました。

焼山峠で前回卵塊が有った所に立ち寄りしました。新しい卵が40腹確認出来ました。すぐ横の池には7腹、奥の湿地で4腹、確認しました。まだ、標高が高いのでふ化していませんでした。

焼山峠から乙女高原へ向かう途中にある木道の湿地帯で産卵調査を行うことにしました。行く途中の道路脇斜面には少し雪が残っていましたが、湿地帯には雪は有りませんでした。木道の調査地点へ進み周辺を探すと、前回の5腹の卵塊の他新しく4腹確認しました。まだふ化していませんでした。

産卵調査地点の谷地坊主エリアは、道路から谷地坊主の近くまで下りて足元に注意しながら卵塊を探したら、前回確認出来なかったが、今回は5腹確認できました。木橋の近くではクリソウの葉がたくさん芽吹いていました。また、アカハラが谷地坊主の中を餌をついばみながら移動していました。

山梨高校寮跡湿地へ向かいました。前回の観察で卵塊が見つかった場所の近くに新たに3腹確認出来ました、ふ化はしていませんでした。産卵調査終了後、草原内を散策することになりました。

午後から用事の二人を見送った後、乙女湖湖畔の東屋で昼食後、帰りに落石防止工事予定地の落葉樹林帯に立ち寄りしました。ヤマエンゴサク、ニリンソウ、コガネネコノメ、ユリワサビ、フデリンドウ等がたくさん咲いていました。

最後にヒナスマレの咲く山の神でカタクリ、ヒナスマレを観て帰りました。以前葡萄の木の剪定した枝がたくさん捨てて有った所にも枝が腐り無くなり、ヒナスマレが戻って来ていました。

日々暖かくなって来ているので乙女高原に咲く花々等、次回のスマレ観察会が楽しみになってきています。 ※なお、調査の様子は、角田さん作成のユーチューブ動画で見ることができます→



※参加した小学校4年生がレポートを書いてくれました。

初めに、まきおか道の駅で集合して、おとめ高原に行く途中、五か所の調査地へ行きました。

その中でより心にのこった調査地は、二か所目と四か所目です。二か所目はなぜ心にのこったかと言うと、カエルのおたまじゃくしがいたことと、ヒキガエルのたまごを生まれて初めて見たからです。ヒキガエルのたまごはまるでホースみたいでした。

四か所目はアメンボの成虫とカゲロウの赤ちゃんをつかまえたことと、先生に「あみを持ってきた子は初めてだ」と言われたこと、見れませんでした。カエルがいたことが心にのこりました。カゲロウの赤ちゃんはおたまじゃくしみたいでした。

今回の調査は、とても楽しかったので、またさんかしたいです。

【お父さんのコメント】いつも貴重な経験をさせていただき、ありがとうございます。可能な限りではありますが、また活動に参加させていただきたいと思います。息子も「また行くー！」と張り切っております。今後ともよろしくお願ひいたします。

## ●4月25日の乙女高原

記事：植原 彰

この日はちょうど林道の冬季閉鎖が解除される日でした。朝から太陽が照り付け、乙女高原でも暑いくらいの陽気でした。平日でも大手を振って自然観察できる身分になった幸せを噛みしめながら、のんびりと乙女高原を目指しま

した。

まずは旧杣口林道入口の湿地。2014年まではヤマアカガエルの産卵が見られましたが、それ以降、ぶっつりと見られなくなってしまいました。今年もダメでした。ヒキガエルの卵塊もありませんでした。でも、ミソサザイやウグイスの音がずっと聞こえていて、オオルリが杉の木のでっぺんで元気にさえずっていました。いつもオオルリを探すときには、「木のでっぺんのちょっと下の横枝」を探すのですが、ほんとにでっぺんでした。足元では、湿地が好きなニョイスミレが咲き始めていました。

カエル池の水はかなり少なくなっていました。昨日、雨が降ったにも関わらず・・・です。カエル池が干上がってしまったのは昨年からです。昨年は卵まで干上がってしまいましたが、今年は今のところ、ぎりぎりセーフ。3月21日に初認したヤマアカガエルのおたまじゃくしは2cmほどの大きさに成長していました。4月17日に初認したヒキガエルの卵はソーメン状のままでした(右写真)。ヤブサメの声を今年初めて聞きました。ヤブサメはウグイスやセンダイムシクイの仲間、とっても小さな夏鳥です。一回だけですが死体を拾ったことがあって、測ってみたら体重は9gしかありませんでした。こんな小さな体で海を渡ってくるのですから驚きです。



カエル池からちょっと車を走らせたところの山の中に、林道からもはっきり見える巨大なフェンスができていたのを4月2日には観ていました。気にはなっていました、今日は一人だし、ゆっくり見ていくことにしました(右写真)。それにしてもすごい構造物ですよ。高さは4mくらいあるでしょうか。幅は30mくらい。さしずめ山の谷地に設置された落石防止の「巨大ダム」といった風貌です。フェンスを支える、銀色にぶく光る金属製の柱が4本。断面は正方形で、一辺が10cmはありそうです。その柱を直径1cmはある丈夫なワイヤー何本かで固定してありました。これで落石を受け止め、下の道路に落とさないようにするのでしょうね。フェンスの上も下も樹木が伐採されていました。まあ作業効率を考えると仕方ないかなあとも思いますが、倒れたらフェンスに影響を与えてしまう上部はともかく、下部には木が生えていたほうがいのではないかと思います。根が張り、地面を支えてくれるし、雨が降ったときに葉が雨を受け止めてくれるので、直接、雨粒が表土に落ち、地面を穿つことはないし、落ち葉がダムの働きをして水を受け止めてくれるし、さらに、木々は落ち葉を「生産」しているので、それを原料に土が作られるし・・・と、落石防止や斜面崩落防止には木々は本当に役立つと思います。そんな木の「能力」を活用して防災すればいいのに・・・と思いました。レポートをまとめて、県の建設課に提出します。ちなみに、自然の力をうまく活用して減災・防災することを専門用語でEco-DRR(エコディー・アール・アール ecosystem-based disaster risk reduction)というそうです。



次に、谷川の脇に大きなカツラの木があるところで車を止めました。芽吹いた直後のカツラの新芽は真っ赤で、遠くから見ると、枯れ木に赤い小さな花が散りばめられているように見えるのですが、もうその時期は過ぎていました。それにしても、すくくとそそり立つカツラの幹は大好きです。斜面を降りると、ヤマエンゴサクやコガネネコノメの可愛い花。でも、そのわきに空き缶だの空き瓶だの石油ポリタンクだのと、ごみがいっぱい。斜面の上から捨てられたものに違いありません。どうしてこんなことができるのか不思議です。ニリンソウやユリワサビ、フデリンドウの花に見とれ、ふと視線を上げると、カスミザクラ(たぶん)の濃いピンク色の花びらが次から次へと舞い降りてきました。頭の中のBGMは、もちろんケツメイシ。



焼山峠に車を置いて、湿地に向かいました。何やらカエルの声が聞こえるのですが、ヤマアカガエルにしては低いし、タゴガエルとも違うし・・・なんだろう・・・と歩みを進めたら、地面を歩くガサツという音。音の主はヒキガエルでした(右写真)。山に向かっていました。合計3匹のヒキガエルを見つけました。みんな山に向かっていたので、もう産卵という一大イベント・お祭りは終わり、それぞれ家に(山に)帰るところかなあと思い、斜面の上から湿地を双眼鏡で探しましたが、卵塊は見つかりませんでした。

カラマツ林の中を探したら、ありましたありました、ヒナスミレの花。そして、ミヤマスミレの花。たくさんあります。こんな感じですから、なかなか乙女高原にたどり着きません。手前の湿地ではヤマアカガエルの産卵調査をしました。「木道湿地」と「梨高湿地」には新卵はありませんでしたが、「木橋湿地」には計5腹の新卵がありました。サンリンソウやクリンユキフデが咲き始めていました。ここでは、アオゲラの夫婦とヤマドリ夫婦に出会いました。歩いていたら、突然バタバタという大きな音がして、ヤマドリの夫婦が飛び出しました。自分から60mは離れていたと思います。こんなに距離が離れているのに、もう逃げだすんだと思いました。

やっと乙女高原に着き、遅いお昼を食べました。午後からは草原の中を歩きました。キジムシロが黄色い花を咲かせ始めていました。草原内で咲いている花はこれだけ。でも、富士ビューのところ、ヒナスミレ、タチツボスミレ、アカ



ネスミレ、そしてミツバツチグリの花を見つけました。

帰りは焼山林道を下りました。薄いクリーム色のヒカゲツツジと真ピンクのミツバツツジがきれいでした。カジカエデやイタヤカエデも花を咲かせていました。自然観察路入口で車を止め、周辺を見て回りましたが、フモトスミレ(右写真)がいっぱい咲いていましたよ。沢水の下からはタゴガエルの声が聞こえていました。

いよいよ乙女高原にまで春が到着しました! 乙女高原においでください。



## 【夏の活動予定】

### ◎乙女高原案内活動

毎年恒例になった乙女高原案内活動。「コロナ禍だけれども、今年は夏の案内活動はあるのかな?」と思われる方がいるかもしれませんが、**3密に気を付けながら実施します**。花盛りの乙女高原で皆さんとお会いすることを楽しみにしています。10時から3時ころまで、ロッジ前のベンチでお待ちしています。是非お声掛けください。



なお、乙女高原案内人でこの活動に賛同して下さる方はぜひご参加ください。1日だけ、半日だけでも結構です。事務局までご一報ください。

### 【夏の案内人活動日】

- ① 7月23日(土)
- ② 7月24日(日)
- ③ 7月30日(土)
- ④ 7月31日(日)
- ⑤ 8月6日(土)
- ⑥ 8月7日(日)
- ⑦ 8月11日(祝/木)

### ◎第20期マルハナバチ調べ隊 (20周年!!)

マルハナバチ個体数の動向を知ることは、いわば乙女高原の健康診断。未来の乙女高原のために大切な活動です。

#### ～盛夏編～

日時: 8月6日(土) 10:00~14:30頃 雨天中止 参加費: 無料

集合: 乙女高原グリーンロッジ

持ち物: 弁当・水筒・筆記用具・腕時計やタイマーなど時間が分かるもの

#### ～初秋編～

日時: 9月3日(土) 10:00~14:30頃 ※場所・持ち物などは、盛夏編と同じです。

\*いずれも、屋外での、人と人の距離をとっての活動ですが、念のため、マスクをご持参ください。



イラスト 高槻成紀さん



**夏でも涼しい乙女高原へお出かけください  
たくさんのお花や虫たちが迎えてくれます**



JR中央線・山梨市駅北口から徒歩1分のところにある「街の駅やまなし」のスペースをお借りして、乙女高原展を開催しています。掲示板1枚と長机1脚だけのミニミニ展ですが、これまで「乙女高原のスマレ」「草刈りボランティア」など、テーマを決めて1~2か月程度で展示替えしてきました。ただいまシーズン31「乙女高原のマルハナバチ」展を開催中です。イベントちらしや入会パンフレットもあります。山梨市駅近くにおいでの際は、覗いてみてください。

なお、乙女高原で撮った写真、乙女高原をテーマにしたオリジナル作品(絵画、詩歌)等ありましたら、ここで展示させていただきます。展示の方法、展示スペース等については要相談です。

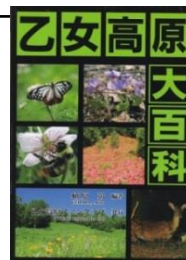


●今号は編集を井上敬子、校正を植原 彰さん、鈴木辰三さんが行いました。今後、山梨市社会福祉協議会の印刷機をお借りして芳賀月子さんと三枝かめよさんが印刷をし、それを鈴木辰三さんに宅配便で送り、発送作業をしていただく予定です。約430通がこうして皆様のもとに届けられます。

## 乙女高原ファンクラブの刊行物

### 乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁)草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら370円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,370円送金してください。



乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』→在庫切れ

## 乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



### フィールドガイドIII スミレの観察のおともに『乙女高原のスマイルウォッチング』

(A3判両面カラー)乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

### フィールドガイドII マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー)マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

### フィールドガイドI 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー)フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月に第3版発行。

## ■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには…「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というフックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。

- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。

今号は普通会员のみにお送りしています。

## ■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号)00220-8-71093 (加入者名)乙女高原ファンクラブ



ホームページ



観察ブログ



活動ブログ



乙女高原後援会  
フェイスブックグループ